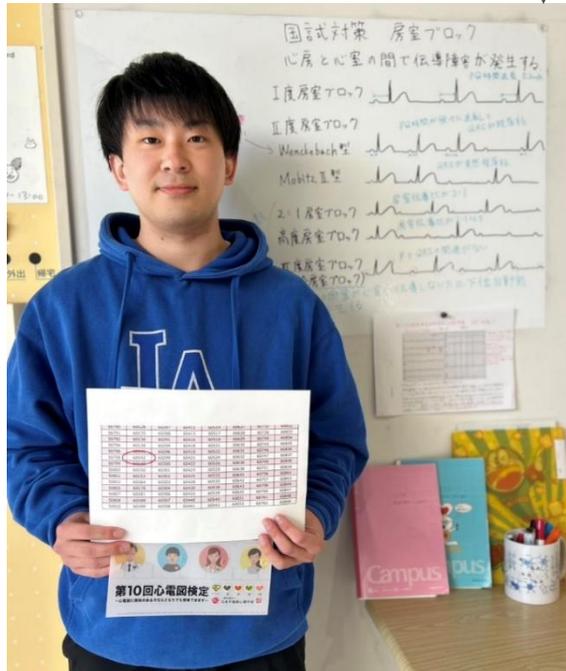


心電図検定

前迫さん快挙 最難関の1級合格

医学検査学科3、4年次生 2級突破者も

自身の受験番号が載った合格者名簿を手にする前迫さん



12月に実施された第10回心電図検定で、医学検査学科4年の前迫雅文さんが見事1級に合格しました。

検定レベルは1級から4級まであり、最高レベルの1級は「心電図の高度な判読力を有するもの」と規定されています。1級合格者は、循環器専門医や心電図に深く精通したメディカルプロフェSSIONALとみなされ、実際に病院で働いている検査技師でも合格のためにはかなりの勉強量が必要とされます。このため、基本的な心電図所見だけでなく、患者さんの状態や疾患・病態から起こり得る変化についての知識も深くないと合格できません。前迫さんは、授業や国家試験対策もある中で快挙を成し遂げました。

なお、今回は4年次生と3年次生それぞれに2級合格者も出ました。こちらも、

学生での合格は快挙であり同様に賛辞を贈りたいと思います。

指導にあたった富田文字子教授と原口実紗講師の元には、前迫さんから心電図検定の勉強に使用したノートや、後輩たちのために作成した練習問題が届けられています。近日中に公開する予定だということです。

前迫さんは「複雑で難解な不整脈や重篤な病態に対応できる心電図判読能力を少しでも高め現場で活かすため、検定を受けました。循環器領域が好きで、好奇心から勉強していましたが、これからは患者さんの利益に繋がるように精進したいと思います」と抱負を語っていました。

(医学検査学科)

ハンドボール・リーグH ピンディーズ公式戦

健活フェアで試合盛り上げ

ハンドボールの国内最高峰・リーグH女子公式戦、熊本ビューストピンディーズ対三重バイオレットアイリスの試合が15日(土)、山鹿市総合体育館であり、試合前イベントとして、ピンディーズ、山鹿市と本学とのコラボによる「あそび場+健活フェア」が開催されました。

これは、包括連携協定を結んでいるピンディーズから「試合を盛り上げたい」との声掛けで実現したものです。会場となった同体育館第2アリーナには、遊び場、健康測定、栄養の各ブースが設けられ、事前に申し込みがあった

公式戦観戦者約100人が参加しました。

本学の教職員・学生ボランティア約30人は、健康測定を担当。骨密度測定や10m走、全身反応時間の測定などを行いました。ブースを訪れた人たちからは、「佐賀から来ましたが、このような大学があることを初めて知りました」、「大病を患ってからは健康を意識しているので状況が分かり良かった」などの感想が聞かれました。

イベント後の公式戦も大変盛り上がり、ピンディーズが31-20で快勝しました。

(入試・広報課)



来訪者の体組成測定を行う本学スタッフ

春の訪れ実感



写真は、左上から反時計回りにヒイラギ、ホトケノザ、タンポポ、山茶花、梅

暦の上では春とはいえ、手を擦り合わせて暖をとらずにはいられない寒さが続いています。ちょっと勇気を出して外に出てみると、自然豊かなキャンパス内では植物たちが大小さまざまな花を咲かせていました。ヒイラギは葉っぱに隠れてこっそりと、ホトケノザは太陽に照らされどこか眩しそうな表情で、タンポポや山茶花はまるでここに咲いているよと主張しているかのようです。恥ずかしそうに花の支度を整えているのは梅の枝。寒い冬を耐え抜いて花を咲かせようとする姿は、今まさに国家試験に臨んでいる4年次生のように。満開となることを祈っています。(NL編集部)



月刊誌「総合リハビリテーション」2月号

益満准教授、特集記事を分担執筆

余暇活動から脳卒中生活期のQOL考える

益満准教授



「総合リハビリテーション」2月号の表紙

リハビリテーション関連の分野では国内で最も古い歴史を持つ「総合リハビリテーション」(医学書院)の「脳卒中生活期—QOL 向上にむけて」と銘打った2月号の特集で、健康・スポーツ教育研究センターの益満美寿准教授が分担執筆しています。

『総合リハビリテーション』は、リハビリテーション領域をリードする総合誌(月刊誌)で、1973年から発行を重ねています。最新刊となる2月号の特集では、実践経験のある医師をはじめリハビリテーションの各専門職が、それぞれの立場から、脳卒中生活期のQOL、運動機能障害、高次脳機能障害、精神心理的問題、就労・復職、余暇活動の計6テーマについて分担執筆してい

ます。

益満准教授は、「余暇活動」の支援を担当。自らが行った「旅のリハビリ」の実践事例紹介も加えながら脳卒中生活期の余暇活動支援について作業療法士(OT)の視点から解説しています。

急性期・回復期から、生活期を見据えたりハビリテーション治療が重要となっている今日、生活期には特有の課題があり、多職種・多方面からのサポートが必要となるといいます。益満准教授は「(特集は)リハビリテーションに携わるあらゆる職種が臨床で活かせる内容になっています。特に、臨床実習に行く学生の一助になるはずです」とコメントしました。

(NL編集部)

3年次生に向け「就勝ガイダンス」

看護、医学検査 履歴書対策など11プログラム

いよいよ就職活動が本格化する3年次生を対象とした「就勝ガイダンス」を、6日（木）に看護学科、12日（水）には医学検査学科の学生に向けて開きました。

各ガイダンスでは、学生が①就職活動における“軸”を具体化かつ明確化する、②就職に関する知識・スキルを身に付けることを目的に、「履歴書対策講座」「面接対策講座」「求人票の見方講座」など全11プログラムを実施しました。

終了直後には、進路相談や求人情報、就職試験結果報告書の閲覧ため、両学科の学生が就職・実習支援課を訪れ、急遽、閲覧席を増設するほど盛況でした。学生たちが「主体的・計画的」に就職活動に取り組むことを期待します。（就職・実習支援課）



真剣な面持ちでガイダンスを受ける学生たち

インフォメーション

週間行事予定（2月25日～3月3日）	
2/26（水）	数理・データサイエンス・AIに関する九州ルーテル学院大学との共同研修会
3/1（土）	保護者会役員会
3/2（日）	第6回西里校区健康ウォーキング
3/3（月）	学生支援に関する講演会 （学生相談就学サポートセンター主催）